

自動車保険自由化から三年目。損保業界の競争は激化し、保険料の大幅値下げや新商品の発売が目白押しだが、「被害者」にメリットはあるのか。高額な保険料を払わされる一方で、損保会社の「払い渋り」が指摘されているなか、任意保険のあり方を疑問視し、自動車損害賠償責任保険（自賠責）に一本化せよ、という声が出ている。対人賠償の任意保険はホントに必要なのか。

大手運送会社は自前で賠償金プール

任意保険 対人賠償

ホントに必要なか

自賠責保険への一本化が

被害者を救う？

ジャーナリスト
柳原三佳

「はっきりいって、被害者への賠償に高額な任意保険はもう必要ありません。被害者を公平に救済するためには、自賠責の支払い限度額を無制限に引き上げ、保険料の無駄遣いをやめて国の監視の下で一本化すべきです。現実に、車両の保有台数が

多い運送会社やタクシー会社は、自賠責だけに加入し、任意保険はほとんどかけていません。なぜなら、高い保険料を損保会社に払うより、そのぶん自社でプールしておき、万一のときはそこから賠償金を払ったほうが断然トクだからです」
こう言うのは、『示談交渉

人裏ファイル』(情報センター出版局)で交通事故示談の実態を暴いた浦野道行氏だ。

今年六十歳になる浦野氏は、損保会社の損害調査員、大手運送会社の事故係を務め、長年数多くの事故処理を行い、被害者や遺族との交渉に臨んできた。その経験を生かし、運輸省の事故対策センターで専任講師を務めたこともある。

浦野氏がかつて勤めていたA運輸(トラック保有台数千六百台)も任意保険には入っていないかった。

まず、トラック一台あたりの自賠責保険料は、年間七万五千七百円。もちろん全車加入だ。さらにその上乘せとして任意保険にも加入する場合、トラック(二トン超)一台あたりの保険料は、約四十三万円(対人対物、搭乗者。千六百台すべてにかけるとなると、それだけで年間約六億八千八百万円が必要となる。

一九九四年当時、A運輸

任意保険の用途・車種別普及率

(平成11年3月末、自算会調べ)

用途・車種	11年3月末 車両数(台)	対人賠償		対物賠償	
		付保台数(台)	普及率(%)	付保台数(台)	普及率(%)
自家用普通乗用車	12,299,442	9,191,112	74.7	9,232,265	75.1
自家用小型乗用車	29,225,654	21,393,860	73.2	21,422,538	73.3
軽四輪乗用車	8,185,273	5,607,716	68.5	5,614,294	68.6
軽四輪貨物車 (軽三輪車を含む)	10,385,055	5,344,787	51.5	5,276,149	50.8
自家用小型貨物車 (自家用三輪車を含む)	5,639,082	4,218,906	74.8	4,179,641	74.1
自家用普通貨物車	1,749,473	1,420,409	81.2	1,395,524	79.8
営業用普通貨物車	1,006,261	614,502	61.1	597,132	59.3
営業用小型貨物車 (営業用三輪車を含む)	81,479	53,104	65.2	53,765	66.0
営業用乗用車	257,780	134,001	52.0	92,907	36.0
二輪車	2,996,632	950,593	31.7	936,776	31.3
合計	73,688,389	49,954,715	67.8	49,769,638	67.5

(注) 車両数は、運輸省資料による。付保台数は、平成11年3月末現在の有効契約台数。

率算定会によると、九八年の自賠責保険支払件数は約百五万件だったが、任意保険(対人)の支払件数は、約三十二万件。つまり、対人賠償の約七割が自賠責保険の範囲内で処理されていることになる。

また、万一事故に遭ったときに、加害者が無保険車だったらどうしようもない。表を見てほしい。これは任意の対人・対物保険(人身傷害特約付を除く)の普及率を、用途・車種別にまとめたものだ。この「車両

の加害事故は、対人、対物合わせて年間約二百七十件発生。事故処理に使った経費は約一億六千二百万円だった。つまり、この会社は任意保険をかけなかったことで、年間五億円以上もの節約ができたわけだ。「これが一万台以上を所有する大手になると、節約できる保険料は年間二十億、三十億円にも上ります。台数がまとまれば、任意保険の必要はまったくなくない。個人がいかに無駄なカネを落としていくかわかるでしょう」(浦野氏)

ちなみにこの年、A運輸では死亡事故の処理が三件あったというが、いずれも自賠責の範囲内(死亡時三千万円)で示談成立。人身事故に対するA運輸からの出費は、見舞金百万円程度にとどまったという。もっとも、任意保険に加入していない運送会社やタクシー会社との事故でトラブルになっているケースが多いのも事実だが、いずれ

にせよ、最近、自前で賠償金をプールする「自家保険」を検討する団体が出てきているという。「とりあえず千台以上の車がある企業や組合、その家族には自家保険をお薦めしますね。この不況時、なにも高い保険料を損保会社にも払わなくても、みんなですの Kane をプールしておけば十分に被害者への賠償ができます。事故処理は弁護士と経験豊富な損保のOBに任せれば問題ない。無事故ならカネは戻ってくるし、とにかく、まったくの無保険で走るより、よっぽどましですよ」(浦野氏)

たしかに資金的余裕のある組織の場合、任意保険に加入せずに自前でやれば、かなり節約できそうだが、個人の場合はそうもいかないだろう。それにしても私たち個人ドライバーは、いったいどのくらいの任意保険料を払っているのか。そしてホン

「任意の対人は無制限でかけるのが当たり前だと思っ

「自由競争の裏側で損保会社はリスクの高いドライバーを敬遠し、その結果、被害者は平等に救済されるという権利を侵されています。本来は、強制加入の自賠責で、苦しんでいる被害者をもっと手厚く救済すべきなのです」

浦野氏も、こう指摘する。「日本のドライバーは、そろそろ自賠責と任意保険の二重構造のおかしさに気づくべきですね。いざというときには全く足りない自賠責への加入を義務づけられたい。え、払い渋りが問題になるような任意保険に、なぜこんなに高い保険料を延々と払わされているのか。あなたはこれまで自動車保険にどのくらいのカネを払ってきたか、一度計算してみてください」

北原氏や浦野氏が言うように、自賠責保険を無制限にし、国の監視下で一本化できれば、このような無保険車はなくなり、被害者はすべて救済されるはずだ。

「任意の対人は無制限でかけるのが当たり前だと思っ

「自由競争の裏側で損保会社はリスクの高いドライバーを敬遠し、その結果、被害者は平等に救済されるという権利を侵されています。本来は、強制加入の自賠責で、苦しんでいる被害者をもっと手厚く救済すべきなのです」

浦野氏の試算によれば、国がやる気になって募集方法や運用方法を変えれば、対人だけでなく対物の無制限化も可能だという。

浦野氏の試算によれば、国がやる気になって募集方法や運用方法を変えれば、対人だけでなく対物の無制限化も可能だという。

もちろん、車種や契約条件によっても異なるが、どの家庭でも支払い保険料を累積していくと、かなりの額に上るはずだ。

「自由競争の裏側で損保会社はリスクの高いドライバーを敬遠し、その結果、被害者は平等に救済されるという権利を侵されています。本来は、強制加入の自賠責で、苦しんでいる被害者をもっと手厚く救済すべきなのです」

浦野氏の試算によれば、国がやる気になって募集方法や運用方法を変えれば、対人だけでなく対物の無制限化も可能だという。

「保険金はできるだけ支払いたくないというのが損保会社の本音です。そのためには、被害者の過失を探し出し、損害を自賠責の限度額内(死亡三千万円、傷害百二十万円)に抑え込む。現実に、大勢の被害者が泣き寝入りを強いられています。もし、支払いが自賠責の上限を二円でも超えたら、契約者の等級をダウンさせ、次の年には保険料を値上げする。それがいやならオーナーぶんは自腹でどうぞ、というわけです」

「自由競争の裏側で損保会社はリスクの高いドライバーを敬遠し、その結果、被害者は平等に救済されるという権利を侵されています。本来は、強制加入の自賠責で、苦しんでいる被害者をもっと手厚く救済すべきなのです」

浦野氏の試算によれば、国がやる気になって募集方法や運用方法を変えれば、対人だけでなく対物の無制限化も可能だという。

被害者苦しめる 無保険車の事故

「自由競争の裏側で損保会社はリスクの高いドライバーを敬遠し、その結果、被害者は平等に救済されるという権利を侵されています。本来は、強制加入の自賠責で、苦しんでいる被害者をもっと手厚く救済すべきなのです」

「自由競争の裏側で損保会社はリスクの高いドライバーを敬遠し、その結果、被害者は平等に救済されるという権利を侵されています。本来は、強制加入の自賠責で、苦しんでいる被害者をもっと手厚く救済すべきなのです」

浦野氏の試算によれば、国がやる気になって募集方法や運用方法を変えれば、対人だけでなく対物の無制限化も可能だという。

「自由競争の裏側で損保会社はリスクの高いドライバーを敬遠し、その結果、被害者は平等に救済されるという権利を侵されています。本来は、強制加入の自賠責で、苦しんでいる被害者をもっと手厚く救済すべきなのです」

「自由競争の裏側で損保会社はリスクの高いドライバーを敬遠し、その結果、被害者は平等に救済されるという権利を侵されています。本来は、強制加入の自賠責で、苦しんでいる被害者をもっと手厚く救済すべきなのです」

浦野氏の試算によれば、国がやる気になって募集方法や運用方法を変えれば、対人だけでなく対物の無制限化も可能だという。

お役に立ちましたか? 「僕達」

大車焼 鶏

神田店 神田須田町一丁目二四〇番地 電話三三二五二七〇

上野毛店 世田谷区上野毛四丁目一七番地 電話三三〇五三三三

日比谷店 九の内幸町三丁目九番地 電話三三二二二二二

養魚場 愛知県豊田一色町 電話五九六七三三三

ご会食・祝・茶・仏事にご利用下さい。